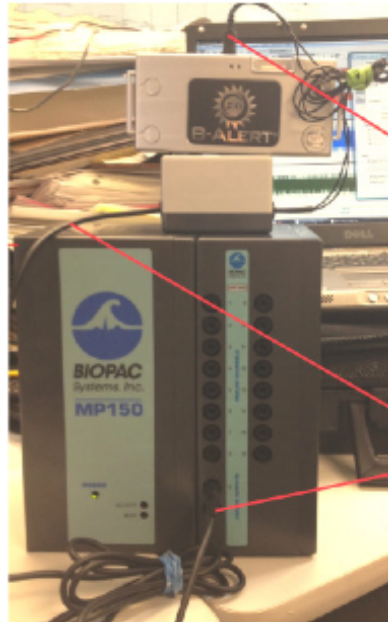


アプリケーションノート 271: 別々のコンピュータで実行されている B-Alert と MP150 システムを同期させる

1. 下記の図のようにハードウェアを接続します。



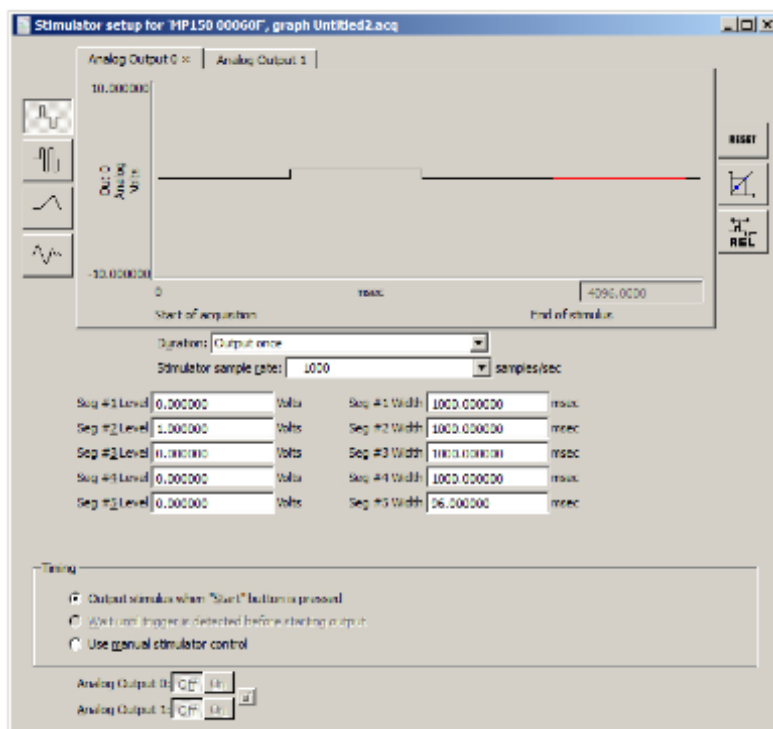
B-Alert システムの EKG (ECG) 入力に接続します。

UIM100C 前面のアナログ出力 (A0) に
3.5 mm フォンジャックコネクタを接続します。

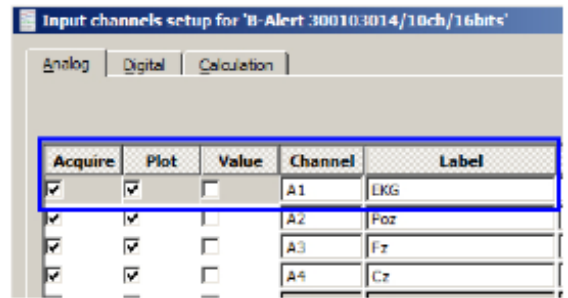
2. MP150 システムと AcqKnowledge ソフトウェアを実験の必要に応じて設定してください。

3. MP150 システムの AcqKnowledge ソフトウェアで :

- 下記の図のように [MP150] > [刺激設定] を選択し、パラメータを設定してください。



4. B-Alert システムの AcqKnowledge ソフトウェアで：
- ・ [B-Alert] > [チャンネル設定] を選択してください。
 - ・ アナログチャンネル 1 (A1/EKG) の “Acquire” と “Plot” にチェックを入れてください。



5. B-Alert システム用の AcqKnowledge ソフトウェアで [スタートボタン] をクリックしてください。

重要！：必ず MP150 システム用の AcqKnowledge を開始する前に B-Alert システム用の AcqKnowledge を開始してください。

6. MP150 システム用の AcqKnowledge ソフトウェアで [スタートボタン] をクリックしてください。

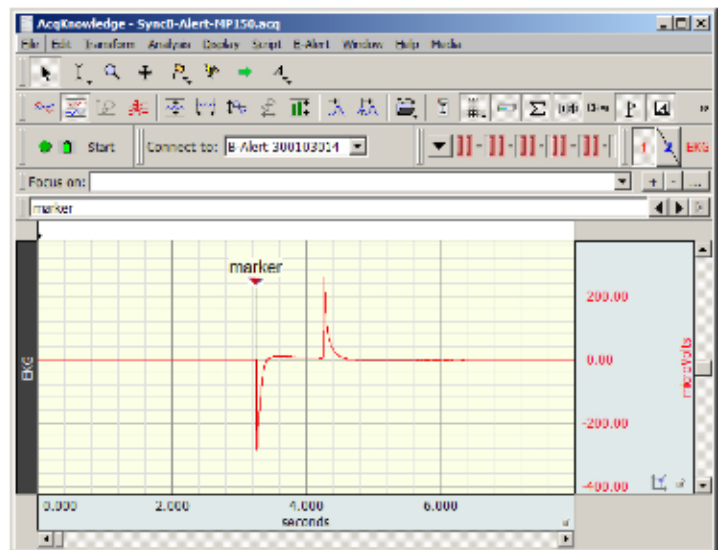
7. B-Alert のデータをよく見てください。負と正のスパイク*が表示され、下の図のようになります。

(より良く見るために必要であれば、CH1 を縮小し、追加のチャンネルを非表示にしてください。)

- ・ イベントマーカーは刺激の始まりを示しています。(このマーカーは参照のために手動で追加されています。)

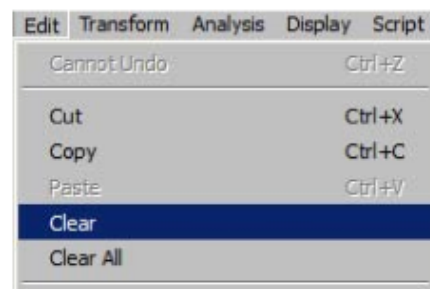
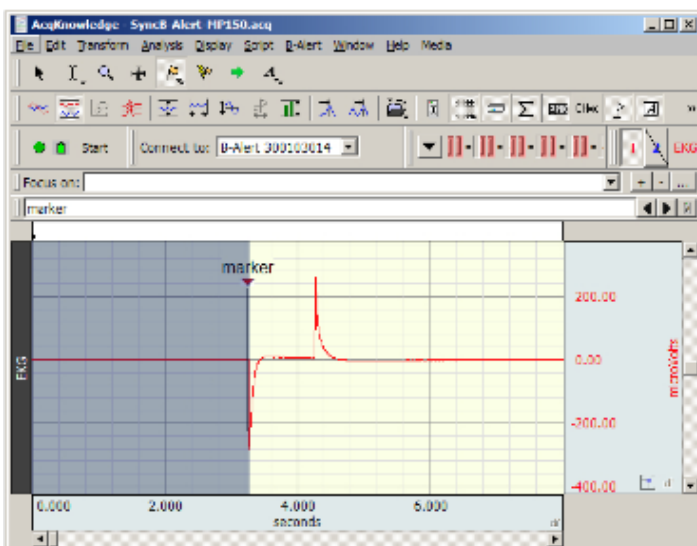
*EKG チャンネルによって適用されるフィルタリングにより、

矩形波が B-Alert 波形に表示されます。必要であれば、正確な表現の代わりに AC 結合された正弦波を使用することができます。



8. データの記録完了後、刺激が発生した B-Alert グラフの先頭に戻ります。

9. 刺激前の全てのデータにハイライトをして [編集] > [消去] を選択してください。



10. 以上で、MP150 のデータは B-Alert のデータへ同期が完了しました。(MP150 のデータファイルの「0」の時点は B-Alert のデータファイルの「0」の時点と等しくなります。)

